

政務活動費成果届出書

届出者 小出 義一

○使途項目 (○をつける) 調査研究・**研修**・広報・資料作成・資料購入

○タイトル

南吉を活かしたまちづくりについて～児童文学の聖地を目指して～

○目的 (計画書の目的欄をそのまま記載)

半田市の誇りである児童文学作家、新美南吉の作品は今もなお生き続け、多くの人たちを魅了しているが、新美南吉のゆかりのまちに住む半田市民においては、新美南吉文学に触れる機会が少ないことが課題と感じている。全ての市民がそれぞれの年代に合った南吉文学との関わり方について調査し、半田市に生まれ育つ中で、南吉に触れる機会が生涯に渡ってあるまちづくりの具体的な取組み(提言)に活かしていく研修とします。

○結果 (目的は達成できたか。予想と外れた場合にはその旨も記載。)

南吉記念館館長を永く勤められた、山本英夫氏をお招きし南吉作品への評価と活用方法について伺った。

- ・南吉作品の特徴と魅力は、「物語性の豊かさ」・「描写力・表現力の確かさ」・「郷土性の豊かさ」にある。
- ・作品の魅力を多くの方に知って頂くことは有意義で、特に市内の小中学に南吉を知る機会を作っていくことは重要な事と改めて感じた。
- ・すでに山本先生が教員時代に南吉作品を使った“集団読書テキスト”を作成している。“集団読書テキスト”は40冊を1セットにして19作品を収録しているとのこと、子ども達の豊かな感性を育むことができるのではないかと感じました。

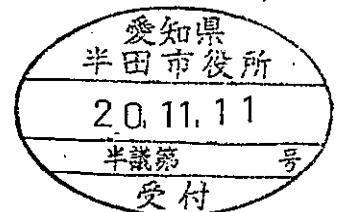
○提言 (半田市に対し、何をどう活用するか。)

南吉作品を使った“集団読書テキスト”は、クラス全員で学びを深めることができる優れた教材で、“読書活動推進計画”の中にその活用を明記し継続して活用してほしい。

○その他 (その他特記事項があれば記載。目的とは別内容も可。)

Blank box for additional remarks.

確認欄	議長	管理委員長



○実績 (別紙に領収書を添付すること)

日にち	時間	内容		金額 (円)	領収書 No.
10/28	9:30~ 11:00	講師謝礼 (山本英夫氏 新美南吉記念館元館長)		7,500	①
			合計	7,500	
		合計を参加者10名で按分	1人あたり	750	

8

8

領収書等貼付用紙

議員名 小出 義一

タイトル

南吉を活かしたまちづくりについて～児童文学の聖地を目指して～

1枚中 1枚目

※報告書における領収書 No.が分かるように貼り付けること。

原本は小出議員に添付

領 収 書 ①

金 7,500 円 也

但し、10月28日開催 半田市議会議員勉強会の
講師謝金として、上記金額領収いたしました。

令和2年10月28日

半田市議会議員

代表 小出義一 他 9名 様

山本 英夫 印

政務活動費成果届出書

届出者 嶋崎昌弘

○使途項目 (○をつける) 調査研究・**研修**・広報・資料作成・資料購入

○タイトル

南吉を活かしたまちづくりについて～児童文学の聖地を目指して～

○目的 (計画書の目的欄をそのまま記載)

半田市の誇りである児童文学作家、新美南吉の作品は今もなお生き続け、多くの人たちを魅了しているが、新美南吉のゆかりのまちに住む半田市民においては、新美南吉文学に触れる機会が少ないことが課題と感じている。全ての市民がそれぞれの年代に合った南吉文学との関わり方について調査し、半田市に生まれ育つ中で、南吉に触れる機会が生涯に渡ってあるまちづくりの具体的な取組み(提言)に活かしていく研修とします。

○結果 (目的は達成できたか。予想と外れた場合にはその旨も記載。)

達成できた。
・「童話には下限があるが上限はない」をモットーに。
・南吉さんが抱き続けた願いと死への不安、恐れを15歳、17歳に書いているとは。
・S55年、全部の教科書会社が「ごんぎつね」を採用、結果50歳以下の6,000万人以上(日本人の約半分以上)が学習をした。

○提言 (半田市に対し、何をどう活用するか。)

・各年齢層ニーズに合ったPR方法を考え実施する。
・元館長さんによる集団読書テキストを有効活用する。
・南吉さんの出前授業を行う。

○その他 (その他特記事項があれば記載。目的とは別内容も可。)

	議長	管理委員長
確認欄		

○実績 (別紙に領収書を添付すること)

日にち	時間	内容		金額 (円)	領収書 No.
10/28	9:30~ 11:00	講師謝礼 (山本 稟夫氏 新美南吉記念館元館長)		7,500	①
			合計	7,500	
		合計を参加者10名で按分	1人あたり	750	

令和2年 11月 4日

領収書等貼付用紙

議員名 嶋崎昌弘

タイトル

南吉を活かしたまちづくりについて～児童文学の聖地を目指して～

1枚中 1枚目

※報告書における領収書 No.が分かるように貼り付けること。

領 収 書 ①

原本は小出議員に添付

金 7,500 円 也

但し、10月28日開催 半田市議会議員勉強会の
講師謝金として、上記金額領収いたしました。

令和2年10月28日

半田市議会議員
代表 小出義一 他 9名 様

山本英夫 印

政務活動費成果届出書

届出者 芳金秀展

○使途項目 (○をつける) 調査研究・**研修**・広報・資料作成・資料購入

○タイトル

南吉を活かしたまちづくりについて～児童文学の聖地を目指して～

○目的 (計画書の目的欄をそのまま記載)

半田市の誇りである児童文学作家、新美南吉の作品は今もなお生き続け、多くの人たちを魅了しているが、新美南吉のゆかりのまちに住む半田市民においては、新美南吉文学に触れる機会が少ないことが課題と感じている。全ての市民がそれぞれの年代に合った南吉文学との関わり方について調査し、半田市に生まれ育つ中で、南吉に触れる機会が生涯に渡ってあるまちづくりの具体的な取組み(提言)に活かしていく研修とします。

○結果 (目的は達成できたか。予想と外れた場合にはその旨も記載。)

山本先生のお話を伺い、地域に元々ある魅力というのは多くの場合、その土地の人でない方のほうが感じやすいことを改めて感じました。そして、南吉文学が童話や絵本という形で発表されていることが多いが、深い人間の情感や哲学的な色合いも濃く、子供たちにはいささか難しい内容であることから、ミスマッチが起きているということも感じました。

○提言 (半田市に対し、何をどう活用するか。)

数ある南吉文学を内容によって年代別に違う角度で世間に発表するプロセスが有効。例えば、でんでんむしの悲しみを、孤立化する社会の大人向けの絵本として出すとか、記念館にて社会福祉の視点でイベントを開催するとか。小学校でも道徳の時間で扱うなど、文学作品であると同時に哲学書、人生の指南書としても活用する。

○その他 (その他特記事項があれば記載。目的とは別内容も可。)

森信三先生と共に哲学のまちとして、半田市をPRしてもよいのではと感じました。

	議長	管理委員長
確認欄		

○実績 (別紙に領収書を添付すること)

日にち	時間	内容		金額 (円)	領収書 No.
10/28	9:30~ 11:00	講師謝礼 (山本英夫氏 新美南吉記念館元館長)		7,500	①
			合計	7,500	
		合計を参加者10名で按分	1人あたり	750	

8

8

令和2年10月29日

領収書等貼付用紙

議員名 芳金秀展

タイトル

南吉を活かしたまちづくりについて～児童文学の聖地を目指して～

1枚中 1枚目

※報告書における領収書No.が分かるように貼り付けること。

領 収 書

①

原本は小出議員に添付

金 7,500 円 也

但し、10月28日開催 半田市議会議員勉強会の
講師謝金として、上記金額領収いたしました。

令和2年10月28日

半田市議会議員

代表 小出義一 他 9名 様

山本英夫 印

政務活動費成果届出書

届出者 水野尚美

○使途項目 (○をつける) 調査研究・**研修**・広報・資料作成・資料購入

○タイトル

南吉を活かしたまちづくりについて～児童文学の聖地を目指して～

○目的 (計画書の目的欄をそのまま記載)

半田市の誇りである児童文学作家、新美南吉の作品は今もなお生き続け、多くの人たちを魅了しているが、新美南吉のゆかりのまちに住む半田市民においては、新美南吉文学に触れる機会が少ないことが課題と感じている。全ての市民がそれぞれの年代に合った南吉文学との関わり方について調査し、半田市に生まれ育つ中で、南吉に触れる機会が生涯に渡ってあるまちづくりの具体的な取組み(提言)に活かしていく研修とします。

○結果 (目的は達成できたか。予想と外れた場合にはその旨も記載。)

・勉強会全体を通して、新美南吉を知ること、知ってもらうことの大切さを改めて感じた。
・乳幼時期から新美南吉に触れることの大切さ、半田市民が南吉記念館に来館しないのは、南吉さんの素晴らしさが伝わっていないから、又、児童・生徒の学びを深めるためには、小・中学校の先生たちに新美南吉を理解してもらうことは必須など、解決すべき課題や目標を見定めることが出来た。

○提言 (半田市に対し、何をどう活用するか。)

・まずはブックスタートにより、親子で新美南吉に触れるきっかけを作り、その後、半田市民のどの年齢においても新美南吉の人柄や作品などに触れる機会を作ることが大切。
・半田市の宝の一つである新美南吉を市民協働によりこれまで以上に推進すると良い。
・まちづくりは人づくりであると言われていた通り、新美南吉さんの生涯や背景を通して、半田市の子どもを育むためにも、新美南吉記念館で学ぶ体験は必要。

	議長	管理委員長
確認欄		

申し合わせ様式第2号

○その他 (その他特記事項があれば記載。目的とは別内容も可。)

・講師資料の、「新美南吉 年譜」は、記載にある通り、南吉が生きた時代を知ること
 で、南吉作品の感じ方に変化がありとても良かった。
 *日本全体が戦争へ向かって突き進んでいた時に書いた「ひろったラッパ」は、平和を
 愛した南吉の思いが伝わる作品であり、ぜひ学校の先生方に南吉の思いを子どもたちに
 伝えて欲しい。(講師・山本英夫氏)

○実績 (別紙に領収書を添付すること)

日にち	時間	内容		金額 (円)	領収書 No.
10/28	9:30~ 11:00	講師謝礼 (山本英夫氏 新美南吉記念館元館長)		7,500	①
			合計	7,500	
		合計を参加者10名で按分	1人あたり	750	

確認欄	議長	管理委員長

領収書等貼付用紙

議員名 水野 尚美

タイトル

南吉を活かしたまちづくりについて～児童文学の聖地を目指して～

1枚中 1枚目

※報告書における領収書No.が分かるように貼り付けること。

領 収 書 ①

原簿は小出議員に添付

金 7,500 円 也

但し、10月28日開催 半田市議会議員勉強会の
講師謝金として、上記金額領収いたしました。

令和2年10月28日

半田市議会議員
代表 小出義一 他 9名 様

山本 英夫  印

政務活動費成果届出書

届出者 鈴木 幸彦

○使途項目 (○をつける) 調査研究・**研修**・広報・資料作成・資料購入

○タイトル

南吉を活かしたまちづくりについて～児童文学の聖地を目指して～

○目的 (計画書の目的欄をそのまま記載)

半田市の誇りである児童文学作家、新美南吉の作品は今もなお生き続け、多くの人たちを魅了しているが、新美南吉のゆかりのまちに住む半田市民においては、新美南吉文学に触れる機会が少ないことが課題と感じている。全ての市民がそれぞれの年代に合った南吉文学との関わり方について調査し、半田市に生まれ育つ中で、南吉に触れる機会が生涯に渡ってあるまちづくりの具体的な取組み(提言)に活かしていく研修とします。

○結果 (目的は達成できたか。予想と外れた場合にはその旨も記載。)

山本英夫元館長の講演は、予想を超えた素晴らしいものであり、目的は達成した。
 教員時代に、若き山本先生を南吉文学の検証に引き込んだ先輩教諭がいて、そこから今度は、各学校の後輩教諭に南吉教育を児童に伝えるご努力を退職までされたこと。
 生誕百年(記念館館長時代)は、本当に大変だったが、とても盛り上がった。
 子どもたちに南吉に触れさせるため、教育委員会と童話集を制作し、今の南吉教育の礎を築いてこられた。
 郷土の誇りである南吉が叶えられなかった波紋(作品の広がり)を見ること。今後は市民がその波紋をさらに広げる役目を担う必要がある。

○提言 (半田市に対し、何をどう活用するか。)

- ・すべての市民に、南吉を知る機会を増やすこと。記念館に行きたくなる仕掛け。
- ・市内の児童生徒には、一作でも多くの作品を読ませること。
- ・そのためには、教員も新美南吉をもっと深く知っておく必要があるのではないか。
- ・40年前から現在まで、すべての教科書に採用されている「ごんぎつね」。この凄さをもっとPRすべきである。(50歳以下の人すべてが教科書で出会っている事実)
- ・彼岸花を植える体験をすることで、南吉を身近に感じられる。自分が植えたという自負の心が、知人や後世への広報につながるのではないか。

	議長	管理委員長
確認欄		

○その他 (その他特記事項があれば記載。目的とは別内容も可。)

★「南吉を活かしたまちづくり」とは何か？
 ただ童話の応募数を増やそうとしたり、南吉にまつわる看板やモニュメント等で宣伝して、南吉に興味をもってもらう、ではないと思う。
 市民全体が、自分の住むまちの凄い偉人なんだ。その作品も実に素晴らしいものだ。市民はみんな南吉さんのファンなんだ！という意識が芽生えれば、自然に応募数は増えるだろうし、記念館もさらに注目され、市内の景観も南吉ムードにあふれ、“半田といえは南吉だよ”という言葉が定着すると思うし、それが目標である。
 そのためには、何をおいても市民が南吉さんを知ること、尊敬すること、好きになること！そこからの発信力は凄いものがあると思われる。

○実績 (別紙に領収書を添付すること)

日にち	時間	内容		金額 (円)	領収書 No.
10/28	9:30～ 11:00	講師謝礼 (山本英夫氏 新美南吉記念館元館長)		7,500	①
			合計	7,500	
		合計を参加者10名で按分	1人あたり	750	

確認欄	議長	管理委員長

領収書等貼付用紙

議員名 鈴木 幸彦

タイトル

南吉を活かしたまちづくりについて～児童文学の聖地を目指して～

1枚中 1枚目

※報告書における領収書No.が分かるように貼り付けること。

領 収 書

①

原本は小出議員に添付

金 7,500 円 也

但し、10月28日開催 半田市議会議員勉強会の
講師謝金として、上記金額領収いたしました。

令和2年10月28日

半田市議会議員

代表 小出義一 他 9名 様

山本英夫  印

政務活動費成果届出書

届出者 山本半治

○使途項目 (○をつける) 調査研究・研修・広報・資料作成・資料購入

○タイトル

南吉を活かしたまちづくりについて～児童文学の聖地を目指して～

○目的 (計画書の目的欄をそのまま記載)

半田市の誇りである児童文学作家、新美南吉の作品は今もなお生き続け、多くの人たちを魅了しているが、新美南吉のゆかりのまちに住む半田市民においては、新美南吉文学に触れる機会が少ないことが課題と感じている。全ての市民がそれぞれの年代に合った南吉文学との関わり方について調査し、半田市に生まれ育つ中で、南吉に触れる機会が生涯に渡ってあるまちづくりの具体的な取組み(提言)に活かしていく研修とします。

○結果 (目的は達成できたか。予想と外れた場合にはその旨も記載。)

達成できた

- 市内小中学校教の教師が南吉作品の中から制作した「集団読書テキスト」は小学校低学・中学・高学年以上の童話集として19作品が発刊され各校に40セット用意されている。また、国語の教科書に掲載されている「ごんぎつね」を合わせると市内の小学生は南吉作品を20作品身近に読むことができる。
- 昭和55年(1980年)40年前から全部の教科書会社が「ごんぎつね」を採用しており、6,000万人以上(日本人の約半分以上)が学習している。また、現在学習している子どもの父母も学んだ作品となっている。
- 南吉は、中学3年15歳の日記の中で「今から何百年、何千年後でも、もし余の作品が認められるなら、余はそこに再び生きることが出来る。この点において、余は実に幸福といえる」と記していた。また、亡くなる2日前、小学校の恩師の奥さんに「私は、池に向かって小石を投げた。水の波紋が大きく広がるのを見てから死にたかった、それを見届けずに死ぬのはとても残念だ」と語っていた。
- 南吉作品は全ての年代に読まれる作品となっている。
- 「権狐」が書かれたのは昭和6年10月4日南吉が18歳の時で、来年で90年となる。

確認欄	議長	管理委員長

○提 言 (半田市に対し、何をどう活用するか。)

南吉の「美しいものを愛する心」を伝えるために

- 全小学生に「集団読書テキスト」を活用した取り組みを積極的に実施して、南吉作品に触れさせていく。
- 大人から子どもまでが南吉作品に触れ親しむことが出来る、新美南吉記念館に多くの市民が訪れることが重要となる。
- 南吉が投げかけた心の波紋を半田市民が受け継ぎ広げることが重要である。

○その他 (その他特記事項があれば記載。目的とは別内容も可。)

- 日本人の約半分以上が学習している「ごんぎつね」の作家が半田市出身の新美南吉という事をもっと市民にも全国にもアピールする必要がある。
- 草稿「権狐」が書かれて90年となる来年10月4日(彼岸花開花時)に向けて、文学薫るイベントを実施する。
- 講師からいただいた、新美南吉年譜を有効活用する。

○実 績 (別紙に領収書を添付すること)

日にち	時 間	内 容	金額 (円)	領収書 No.
10/28	9:30～ 11:00	講師謝礼 (山本英夫氏 新美南吉記念館館長)	7,500	①
			合計	7,500
		合計を参加者10名で按分	1人あたり	750

確 認 欄	議長	管理委員長

令和2年 11月 3日

領収書等貼付用紙

議員名 山本 半治

タイトル

南吉を活かしたまちづくりについて～児童文学の聖地を目指して～

1枚中 1枚目

※報告書における領収書 No.が分かるように貼り付けること。

領 収 書 ①

①
原本は小出議員に添付

金 7,500 円 也

但し、10月28日開催 半田市議会議員勉強会の
講師謝金として、上記金額領収いたしました。

令和2年10月28日

半田市議会議員
代表 小出義一 他 9名 様

山本 英夫 印

政務活動費成果届出書

届出者 竹内 功治

○使途項目 (○をつける) 調査研究・**研修**・広報・資料作成・資料購入

○タイトル

南吉を活かしたまちづくりについて～児童文学の聖地を目指して～

○目的 (計画書の目的欄をそのまま記載)

半田市の誇りである児童文学作家、新美南吉の作品は今もなお生き続け、多くの人たちを魅了しているが、新美南吉のゆかりのまちに住む半田市民においては、新美南吉文学に触れる機会が少ないことが課題と感じている。全ての市民がそれぞれの年代に合った南吉文学との関わり方について調査し、半田市に生まれ育つ中で、南吉に触れる機会が生涯に渡ってあるまちづくりの具体的な取組み(提言)に活かしていく研修とします。

○結果 (目的は達成できたか。予想と外れた場合にはその旨も記載。)

下記のことを学んだことで、目的は達成できたと考えます。
・全国的に知名度が高く、数多くいる南吉と南吉作品のファン。(今後の発信力に期待)
・南吉記念館を利用する半田市民の少なさ。
・集団読書テキストの発刊の経緯と必要性。
・南吉作品の特徴や魅力。
・南吉童話は幼少年だけでなく、中高生から大人まで読み続けることで変わる面白味。

○提言 (半田市に対し、何をどう活用するか。)

・南吉を半田市のプロモーションに活用することで、市民の誇りと愛着を増やす。
・南吉記念館の大人の利用増について、方策を考える。(彼岸花の球根を植える体験等)
・市内の各小学校における集団読書テキストの活用。(朝や下校前の学級活動等にて)
・中高生や大人が南吉作品に触れる機会を増やすこと。

○その他 (その他特記事項があれば記載。目的とは別内容も可。)

確認欄	議長	管理委員長

○実績 (別紙に領収書を添付すること)

日にち	時間	内容		金額 (円)	領収書 No.
10/28	9:30~ 11:00	講師謝礼 (山本英夫氏 新美南吉記念館元館長)		7,500	①
			合計	7,500	
		合計を参加者10名で按分	1人あたり	750	

8

8

領収書等貼付用紙

議員名 竹内功治

タイトル

南吉を活かしたまちづくりについて～児童文学の聖地を目指して～

1枚中 1枚目

※報告書における領収書No.が分かるように貼り付けること。

領 収 書 ①

原本は小出議員に添付

金 7,500 円 也

但し、10月28日開催 半田市議会議員勉強会の
講師謝金として、上記金額領収いたしました。

令和2年10月28日

半田市議会議員

代表 小出義一 他 9名 様

山本英夫  印

政務活動費成果届出書

届出者 岩田玲子

○使途項目 (○をつける) 調査研究・**研修**・広報・資料作成・資料購入

○タイトル

南吉を活かしたまちづくりについて～児童文学の聖地を目指して～

○目的 (計画書の目的欄をそのまま記載)

半田市の誇りである児童文学作家、新美南吉の作品は今もなお生き続け、多くの人たちを魅了しているが、新美南吉のゆかりのまちに住む半田市民においては、新美南吉文学に触れる機会が少ないことが課題と感じている。全ての市民がそれぞれの年代に合った南吉文学との関わり方について調査し、半田市に生まれ育つ中で、南吉に触れる機会が生涯に渡ってあるまちづくりの具体的な取組み(提言)に活かしていく研修とします。

○結果 (目的は達成できたか。予想と外れた場合にはその旨も記載。)

目的は達成できた。
・元館長さんであり、国語の先生でもられる山本先生の話しに、南吉文学を子供にどう触れてもらうかのヒントを頂いた。
・学校にある、南吉文学書を活用すると、クラス全員が10分程度で南吉文学を読本することが可能であり、先生の指導力によるものもおおきい。

○提言 (半田市に対し、何をどう活用するか。)

・特に教科書で学ぶ4年生前後に、南吉文学に触れることが望ましいが、学校教材の活用をしっかり検討し、各学校の先生方にも、南吉文学について子供たちに触れさせていただけようご指導いただきたい。
・南吉文学に年齢の上限はないので、大人にも、触れ合う機会が作られることが望ましい。
・子供のうちに、南吉さんの生家や記念館等、ゆかりの地を訪れ、作品に触れることが望ましい。

○その他 (その他特記事項があれば記載。目的とは別内容も可。)

	議長	管理委員長
確認欄		

○実 績 (別紙に領収書を添付すること)

日にち	時 間	内 容		金額 (円)	領収書 No.
10/28	9:30~ 11:00	講師謝礼 (山本英夫氏 新美南吉記念館元館長)		7, 5 0 0	①
			合計	7, 5 0 0	
		合計を参加者10名で按分	1人あたり	7 5 0	

令和2年10月29日

領収書等貼付用紙

議員名 岩田玲子

タイトル

南吉を活かしたまちづくりについて～児童文学の聖地を目指して～

1枚中 1枚目

※報告書における領収書 No.が分かるように貼り付けること。

領 収 書 ①

原本は小出議員に添付

金 7,500 円 也

但し、10月28日開催 半田市議会議員勉強会の
講師謝金として、上記金額領収いたしました。

令和2年10月28日

半田市議会議員

代表 小出義一 他 9名 様

山本英夫 印

政務活動費成果届出書

届出者 渡邊 昭司

○使途項目 (○をつける) 調査研究・研修・広報・資料作成・資料購入

○タイトル

南吉を活かしたまちづくりについて～児童文学の聖地を目指して～

○目的 (計画書の目的欄をそのまま記載)

半田市の誇りである児童文学作家、新美南吉の作品は今もなお生き続け、多くの人たちを魅了しているが、新美南吉のゆかりのまちに住む半田市民においては、新美南吉文学に触れる機会が少ないことが課題と感じている。全ての市民がそれぞれの年代に合った南吉文学との関わり方について調査し、半田市に生まれ育つ中で、南吉に触れる機会が生涯に渡ってあるまちづくりの具体的な取組み(提言)に活かしていく研修とします。

○結果 (目的は達成できたか。予想と外れた場合にはその旨も記載。)

山本英夫元南吉記念館館長の講演
・半田市に赴任されてからの履歴
・南吉を知るきっかけについて
・集団読書テキスト発刊までの経緯と苦勞されたこと
・南吉記念館就任前後の苦勞話について
・南吉生誕百年までの思い出と記憶に残ること
・南吉を活かしたまちづくりに必要だと思われること
上記の内容について、説明と意見交換会を実施、南吉記念館の取組が時系列で分かり、有意義な勉強会でした

○提言 (半田市に対し、何をどう活用するか。)

- ①子ども達が南吉の作品に携わる環境を作る、幼少期(読み聞かせ「保険センター・幼児保育課」、小中学生(記念館を見学)「教育委員会」出前事業は引き続き実施)
 - ②半田市内の人が記念館へ来てもらう事業を行う
 - ③記念館HPの工夫、発信力を上げる
- *半田市全体での取組み

○その他 (その他特記事項があれば記載。目的とは別内容も可。)

確認欄	議長	管理委員長

○実績 (別紙に領収書を添付すること)

日にち	時間	内容		金額 (円)	領収書 No.
10/28	9:30~ 11:00	講師謝礼 (山本 英夫氏 新美南吉記念館元館長)		7,500	①
			合計	7,500	
		合計を参加者10名で按分	1人あたり	750	

8

8

令和2年11月4日

領収書等貼付用紙

議員名 渡邊 昭司

タイトル

南吉を活かしたまちづくりについて～児童文学の聖地を目指して～

1枚中 1枚目

※報告書における領収書No.が分かるように貼り付けること。

領 収 書

①

原本は小出議員に添付


金 7,500 円 也

但し、10月28日開催 半田市議会議員勉強会の
講師謝金として、上記金額領収いたしました。

令和2年10月28日

半田市議会議員

代表 小出義一 他 9名 様

山本 英夫  印